

I はじめに

効果的な I C T 機器の活用を目指して

校長 浮津健史

「G I G A 構想」を受け、児童一人一台のタブレット端末が配布された令和 3 年度、本校においては、まず教員が「タブレット端末に慣れる」ことからスタートしました。1 学期は、今年度より立ち上げた「I C T 委員会」や「研究推進委員会」が中心となって、実践研修を進めました。タブレット端末の機能をどのように効果的に活用し授業に生かしていくか、また新型コロナウイルス感染症拡大防止にむけて、オンライン授業をどのように行うかなど研修は多岐にわたりました。しかしながら、その根底にあるのは、「授業でタブレット端末を使うことが目的ではなく」「タブレット端末を使ってどう子供たちの力を伸ばしていくか」ということ以外ありません。とりあえず使うのではなく、使うことでどのような効果が得られるかが重要であり、はじめて「タブレット端末」を授業で活用する我々にとっては、取り組むことから見えてくる成果や課題を次の授業に生かすことがとても重要となりました。

昨年度は、コロナウイルスの感染状況もあり研究授業を行うことはできませんでしたが、今年度 2 学期に 3 回の研究授業ができたことはとても本校にとって重要であったと感じています。また、教師自身がタブレット端末の活用に慣れること、授業に生かすことも目的に「Jamboard」を使って協議会を行ったことも大変大きいことであったと考えます。「自分達が使えなければ授業で使えることはない。」という姿勢からの取組は、I C T を効果的に活用し授業をよりよくしようとする思いから生まれたものでした。

研究に際しては、講師として東京学芸大学大学院教育学研究科 准教授 北澤 武先生より、今後の授業につながる様々なご助言をいただきました。本当にありがとうございました。今後も「子供たちの学びを深める」ためにも、タブレット端末を活用した教師の授業力向上を進めていきたいと考えています。